

2002 年 9 月 20 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋
小伝馬町 2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-6093
URL <http://www.fuji-keizai.co.jp>

「2002 カメラ関連市場の変貌と将来展望」調査を発行

- 2010年出荷額予測 3兆5,600億円、拡大するデジタルカメラ関連市場規模 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋 原 務社長 03-3664-5811)はこの調査で多機能化、複合化が進むデジタルカメラの新市場創出動向、周辺機器動向、関連サービス動向、そしてカメラ主要部材動向など『デジタルカメラ』を中心としたカメラ市場が今後どのように変貌して行くかを徹底分析した。

1. デジタルカメラとその周辺機器にプリントサービスを加えた市場と新たに派生した複合カメラを加え全体市場は、2010年には出荷額 3兆5,600億円に成長するものと予測する。この規模は2001年の出荷額 7,124億円の約 5倍である。約 20%の成長を見込むデジタルカメラ本体に対して、カメラ付携帯電話が牽引する複合カメラ市場が急激に拡大し、2005年以降デジタルカメラの 2倍以上の規模となり、デジタルカメラの消耗品であるメモリーカードとプリントサービスが市場の拡大をリードするものと思われる。(参考資料 4)を参照)

2. 銀塩カメラとデジタルカメラの本体市場は出荷額ベースでは1998年の5,383億円から2010年に7,300億円(対98年伸長率 135.6%)近くの規模に市場拡大を予測。そのうち銀塩カメラの市場規模は出荷額ベースで1998年の2割程度に縮小する一方、デジタルカメラは、同じく1998年に比較して数量ベースで10倍以上、出荷額ベースで約4倍の6,500億円に市場が拡大すると予測。(参考資料 1)を参照)

3. カメラ付携帯電話が牽引役の複合カメラ市場*は1998年の50億円(数量1.5万台)から2001年352億円(数量107万台)そして2010年には1兆6,400億円(対98年伸長率 300倍超)、数量5,500万台規模と予測する。MP3、携帯電話、ノートPC、PDA、エレコダ、双眼鏡等との複合化なども進み始めており、今後デジタルカメラを応用した市場創出型商品の開発が期待される。(参考資料 2)を参照)

銀塩式からデジタル式製品への市場交代と、新市場創生による需要の拡大が同時に進行する。(レンズ付きフィルムは除外)

* 複合カメラ市場は、携帯電話+カメラ、PDA+カメラ、ノートPC+カメラ、ICレコーダ+カメラ、双眼鏡+カメラ、腕時計+カメラなど他の目的の商品にカメラ機能をハイブリッドさせて付加価値を付けた商品で形成される市場。1998年9月にソニーからノートPCにカメラ機能が付いた「VAIO C1」が発売されてこの市場が立ち上がった。

4. 周辺機器およびプリントサービスなどデジタルカメラ周辺市場もデジタルカメラの市場拡大とともに拡大する。2002年以降2005年に向けてデジタルカメラ自体の市場は若干の減少に転じるが、デジタルカメラ周辺市場は既に市場にあふれているデジタルカメラにより急激に拡大傾向を示し、2010年には1兆3,000億円とデジタルカメラ本体の市場規模を上回ることが予測される。その牽引役はデジタルカメラの消耗品とも言えるメモリーカードと、プリントサービス市場の拡大であろう。(参考資料 3)を

参照)

注目される個別成長市場

2001年の出荷額ベース実績を見るとデジタルカメラのバリエーション別市場構成は、

(1)トイカメラ 20億円 (2)PCカメラ 7億円 (3)スタンダードカメラ 1,970億円 (4)スタイリッシュカメラ 1,850億円 (5)薄型スタイリッシュカメラ 4億円 (6)高性能カメラ(一眼レフ) 1,631億円の実績となっている。

そして、2010年の予測では

(1)トイカメラ 2億円、10分の1に縮小 (2)PCカメラ 110億円で5.7倍、(3)スタンダードカメラ 560億円30%に縮小 (4)スタイリッシュカメラ 2,500億円と1.35倍の伸び (5)薄型スタイリッシュカメラ 800億円は200倍の急成長 (6)高性能カメラ(一眼レフ) 2,540億円、1.6倍へと推移する。すなわち、スタイリッシュカメラと高性能カメラ(一眼レフ)が主流を二分する構成となる。

スタイリッシュカメラ デジタルカメラは製品化の初めから常に画素数競争を繰り広げてハイエンド機種が市場を牽引しながら急成長を続けてきた。しかし、200万～300万画素を超えた頃から、低価格化の進行と重すぎる画像データ、イメージセンサー性能による暗い画像、消費電力増によるバッテリー寿命の低下、撮影画像の書き込み時間の長さから速写が出来ぬなどの不具合が顕著となった。そこで高画素化競争よりもコンパクト化、又はスタイリッシュなデザイン、使い勝手などの感覚的価値を訴える商品が受け入れられるようになり、現在市場の最大ボリュームゾーンを形成している。

商品サイクルが6ヶ月と非常に短い。従って、出来るだけ生産コストを抑える目的で海外生産比率を徐々に高めている。製造原価引き下げとともに、巨大な中国市場への供給を考え中国を中心とした海外生産体制に各社ともシフトしていくものと予想される。

薄型スタイリッシュカメラ コンパクトデジカメの派生カテゴリーとして、薄さに特化した2センチ以下の製品である。2002年にカシオ計算機から124万画素で液晶ファインダを搭載したカード型デジタルカメラが登場して市場が急激に拡大して行くものと期待されている。しかし、2002年8月にソニーより薄型ではない超小型横長タイプデジタルカメラも上市されたため今後コンパクトな簡易カメラはカード型とスティック型の覇権争いが繰り広げられるものと予想される。気軽にスナップ写真を撮るといった簡易記録ニーズをうまく取り込み、好調な販売を続けているが今後高画素化したカメラ付携帯電話の普及に対し差別化を図る必要がある。

高性能カメラ(一眼レフ) 従来レンズ交換式のプロ用カメラが市場を支えてきた。2000年にレンズ交換式デジタルカメラ中級機が30万円程度で登場し銀塩カメラに迫る高画質でハイアマチュア層に急激に広まっていった。またレンズ一体式一眼レフデジタルカメラでは高倍率ズームの低価格化が進み新たな写真愛好層を開拓してこの市場は130万台に急成長。

2002年の主要各社レンズ交換式中級機製品は600万画素以上を実現しA3サイズまででは銀塩カメラと同等のプリント画質を実現した。A3対応のプリントの低価格化が進んでいることから買い換え需要が高まるものと見込まれる。一方レンズ一体式では、300～400万画素クラスの高倍率ズーム機が低価格機種中心に需要を開拓して更にこの市場を240万台市場に拡大するものと見込まれる。

複合カメラ 1998年9月にソニーからノートPCにカメラ機能が付いた「VAIO C1」が発売されてこの市場が立ち上がった。その後2000年にはカメラ付きハンドヘルドPCが発売され、2001年にはカメラ付きICボイスレコーダーまで発売された。しかし、デジタルカメラ複合機として最も成功を収めたのはカメラ付携帯電話である。2001年にJ-フォンが「写メール」サービスを開始すると瞬く間に国内市場に広がりを見せた。2002年には他の携帯電話各社がこのサービスに参入しますます市場は拡大を続けている。この機種は海外携帯電話会社に供給が開始され始めたことから、今後国内外でデジタルカメラを抜き最も大きなカメラ市場となって行くものと期待される。

メモリーカード 当初デジタルカメラの記憶媒体はスマートメディア、コンパクトフラッシュ中心であったが、AV機器メーカー、メモリーカードメーカー各社の思惑が絡み現在メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカード等の規格も登場して各規格が併存している。小型情報機器の記録媒体として活用されるメモリーカード分野は当分デジタルカメラが牽引して急拡大する市場を形成して行く状

況が続くものと期待される。今後デジタルカメラの一層の小型化に対応してよりコンパクトで大容量のメモリーカードに取って代わられて行き、カメラメーカーが海外（主に中国）への生産シフトを進めるため、メモリーカードメーカーも販売比率の高いカメラ同梱販売をコストダウンさせる為には海外生産へシフトして行くことが予測される。

プリントサービス デジタルプリントサービスは インターネット経由 DPE 店頭 CVS 中心のセルフサービスがある。なかでも各種記憶メディアで持ち込めば画像データを確認しながら注文できる DPE が最も確実で安心できる方法である。また、デジタルカメラの普及により35ミリフィルムのプリント需要が減少傾向のためDPE業界の主要企業はデジカメプリント需要を取り込むことに積極的である。フィルムメーカーや DPE 店など関連企業が一斉にデジタルプリントサービスへの対応に注力することで2005年までにこの分野を3,000億円市場に成長させると見込んでいる。

インターネットによるプリントは認知度の低さや操作の難しさから現在は数%に過ぎない。しかし、ADSL の普及により2001年春頃からインターネットプリントが急激に広まってきており、2000年に比べて約7倍の勢いで増える見込みである。今後通信の高速化と共に将来は全体の約2～3割をインターネットプリントが占めるようになると予測される。

調査の概要

調査期間： 2002年6～8月

調査方法： 弊社専門調査員の対象メーカー、関係団体、官公庁などへのヒアリング調査

調査対象品目：14分野

〔カメラ本体〕 35mm コンパクトカメラ、35mm一眼レフカメラ APSカメラ 大判 中判カメラ レンズ付きフィルム インスタントカメラ デジタルカメラ（トイカメラ/PCカメラ/使い捨てカメラ/スタンダードカメラ/スタイリッシュカメラ/薄型スタイリッシュカメラ/高性能カメラ/複合カメラ）

〔カメラ主要部材〕5分野

カメラ用レンズ カメラ用受発光センサ カメラ用モータ カメラ用液晶パネル
カメラ用CCDエリアセンサ

〔デジタルカメラ周辺機器〕4分野

メモリーカード カードリーダー フォトプリンタ フィルムスキャナ

〔デジタルカメラ関連サービス〕2分野

デジタルプリントサービス デジタルプリントセルフサービス機器

資料タイトル：2002 CAMERA 関連市場の変貌と将来展望

体 裁：A4判 173ページ

価 格：105,000円（本体価格100,000円 消費税5,000円）

発 刊 日：2002年8月19日

調 査 編 集：名古屋マーケティング本部

TEL: 052-232-9200(代) FAX: 052-232-9191

発 行 所：(株)富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F K ビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-6093

e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL <http://www.fuji-keizai.co.jp>

調査書目次

.総合分析編	1
1.カメラ市場の製品別実態と将来シナリオ	2
2.用途シーン別にみた棲み分けとメインカメラの動向	3
3.デジタルカメラのバリエーション別市場分析	4
4.デジタルカメラ周辺機器の市場分析と展開シナリオ	5
5.デジタルカメラ関連サービスの実態と今後の方向性	6
6.カメラメーカーの海外生産動向	7
7.カメラ主要部材の市場分析	8
.既存カメラ市場編	9
1.35mmコンパクトカメラ	10
2.35mm一眼レフカメラ	17
3.APSカメラ	24
4.大判・中判カメラ	31
5.レンズ付きフィルム	38
6.インスタントカメラ	45
.デジタルカメラ関連市場編	52
A.デジタルカメラ本体編	53
1.トイカメラ	54
2.PCカメラ	59
3.使い捨てカメラ	64
4.スタンダードカメラ	65
5.スタイリッシュカメラ	71
6.スタイリッシュ薄型カメラ	77
7.高性能カメラ	82
8.複合カメラ	88
B.デジタルカメラ周辺機器編	94
1.メモ리카ード	95
2.カードリーダー	107
3.フォトプリンタ	113
4.フィルムスキャナ	119
C.デジタルカメラ関連サービス動向編	125
1.デジタルプリントサービス	126
2.デジタルプリントセルフサービス機器	130
.カメラ主要部材編	137
1.カメラ用レンズ	138
2.カメラ用受発光センサ	145
3.カメラ用モータ	152
4.カメラ用液晶パネル	159
5.カメラ用CCDエリアセンサ	166